



発行日：令和4年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第59回川部会WGを開催しました！

第59回川部会WGでは、昨年度の進捗状況と今年度の目標、海部会との合同部会の計画、海の栄養塩不足に関する公開講座、市民部会発の勉強会（バスツアー）等について話し合いました。



日時：令和4年6月3日（金）13:30～16:20

会議場所：豊田市崇化館交流館 1階 工芸室

参加者：24名（内オンライン参加7名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. コロナ禍における矢作川流域圏懇談会の開催方針

緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）及び平常時における矢作川流域圏懇談会の実施方針について、事務局より説明をしました。また、オンライン会議での基本ルールについて、情報を共有しました。

2. 矢作川流域圏懇談会について（設立趣旨・規約）

矢作川流域圏懇談会設置の背景と目的、設立趣旨、規約について、事務局より説明をしました。

3. 年間スケジュールについて

令和4年度の全体スケジュール、流域連携イベント（矢作川感謝祭、三河湾大感謝祭、いい川・いい川づくりWS）の日程について事務局より説明をしました。

4. 昨年度の進捗状況と今年度の活動目標

令和3年度の活動テーマである「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」について、実施状況が報告されました。令和4年度は、3つの活動テーマを軸に、他部会を巻き込んだ情報共有・意見交換、矢作川の望ましい姿を検討しながら、明治用水頭首工の漏水事故を踏まえた矢作川の水利用について、工業分野も含めた活動の広がりを進めていきます。

5. 話し合い

(1) 海部会との合同部会の計画について

土砂問題の事例として、掘削土砂の活用事例を視察することを目的に、川部会と海部会の合同部会を実施します。河床掘削場所（鶴の首）と干潟造成場所（三河湾沿岸）を視察し、意見交換を行います。

(2) 海の栄養塩不足に関する公開講座について

海部会主催で8月に実施される「海の栄養塩不足に関する公開講座」の内容について、川部会からの要望等を話し合いました。

(3) 市民部会発の勉強会（バスツアー）について

9月5日～9月17日の間で、市民部会企画のバスツアーが、学生参加も可能な形で開催されます。川部会からは阿摺ダム、阿摺ダム下流部、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川を視察地として計画しています。

(4) 豊川河口 前浜干潟での生物調査等の報告

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、豊川河口の前浜干潟での生物調査・観察の結果について報告されました。また、矢作川河口部の水質データの整理結果について報告されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●年間スケジュールについて

- ・WGの回数よりも協議する内容を決めていく。明治用水頭首工の件など矢作川ではいろんな問題が起きているので、検討する必要がある事項は多いと思う。(近藤)
- ・WG回数ありきではなく、協議内容を明確にし、活動をさらに充実させていかなければいけない。(山路)

●昨年度の進捗状況と今年度の活動目標

- ・矢作川の水を使っている工業系企業が川部会の中に入っていないのは問題と思う。(高橋)
 - ▶川周辺の町や農地を含めた流域圏として流域圏懇談会の中に工業や農業関係を引き入れていくという議論があった。流域圏懇談会と商工業・農業の関係がこれまであまりできていないことが問題点と思う。(内田)
 - ▶川の水を使っている流域、恩恵を受けている都市などを含め、あるべき流域圏を議論する必要がある。(近藤)
- ・あるべき流域圏というテーマで公開講座をやる、各部会で呼んで協議するなどの仕掛けが必要と思う。(近藤)
- ・明治用水頭首工の事案から、矢作川の水管理を共有する必要がある。勉強会や部会を使って共有するなど。(鷺見)
 - ▶今回の明治用水頭首工の問題はよい機会ととらえるべき。工業用水も含め、矢作川の水がどのように使われているのかが一般にあまり認知されていない。水利用、水循環などをテーマに仕掛けを作っていくべき。(近藤)
 - ▶上下水道や農業用水を含めて「矢作川」ととらえれば、適切な水循環の検討ができると思う。(高橋)
 - ▶明治用水頭首工の件で、農業関係者に矢作川の重要性への認識ができたと思う。(榊原)
- ・これまでの川部会の活動を踏襲しつつ、明治用水頭首工の事故を踏まえ、広げていくことを検討していく。(内田)

●話し合い

- 海部会との合同部会の計画について
 - ・日程は工事実施日に合わせて調整している。7/1~8/20が工事予定なので、その間で日程調整する。(筒井)
 - ・海側の施工時期が決まっており、海側の施工時期に合わせて日程調整する。(山路)
 - ▶海側が中心でよい。海側の施工時期に合わせて日程調整をお願いする。(内田・鷺見)
- 海の栄養塩不足に関する公開講座について
 - ・公開講座は海部会の企画として、8/20(土)の15:00~17:00での実施を計画している。(筒井)
 - ・講師の藤原先生は瀬戸内海が専門。三河湾については海部会から話題提供していく予定。(山路)
 - ・海の栄養塩について、元々どれくらいあって、それがどれくらい減ったのか。農業とか林業からの供給、人工系・都市系の影響などが議論の中に入ってくると生産的だと思う。(鷺見)
 - ▶矢作川の構造として、堰などで止められて、山から出てくる栄養塩が海まで届いていない。(高橋)
 - ▶砂浜・海辺・干潟・藻場が減少し、コンクリート護岸だらけになっている。栄養塩がないのと、水辺空間がないというダブルインパクトがある。水辺空間がないから栄養塩を出さざるを得ないというのが現状と思う。(近藤)
 - ・海の栄養塩不足は広い地域で問題となっている。昨年度と同様に、Web参加など他の地域の方にも議論に加わっていただく形式でお願いしたい。(内田)
- 市民部会発の勉強会(バスツアー)について
 - ・今回は学生の参加を可とする。9/1・2・8・9で日程調整中。訪問地は少なくなる可能性がある。(石原)
 - ・本来の目的は、山・川・海の部会の連携、情報共有。しかし、外に広げていくことを目的に、人間環境大学など流域内の大学に声をかける。学生参加は10名程度を想定している。(近藤)
 - ・大型バスであると、入っていけない道や駐車スペースとかの制限があるので、マイクロバス2台を予定する。(山路)
 - ・ハザードマップや浸水想定区域図などを使って通過しているところの説明をするとよい。(鷺見)

●その他

- ・若い人を巻き込む取り組みとして、3月に根羽村で林業体験インターン研修、5月に天竜川ツアーを行った。(近藤)
- ・外への発信として、5/26に流域圏懇談会活動や47災について洲崎さんに講演していただいた。(近藤)
- ・6/14に愛知・川の会のイベントとして、「流域治水と都市計画」というテーマで講演会を開催する。(近藤)
- ・6/5に豊田市で「全国トンボ・市民サミット」、11月に人間環境大学で日本トンボ学会大会を開催する。(松沢)
- ・6/18にヨシ原再生事業を行っている矢作川河口において、「ヨシ植え体験会 in 矢作川」を開催する。(山路)

今後の予定

■海部会・川部会合同WG 日時：令和4年8月10日(水)9:00~17:00 場所：鶴の首地区・西尾市沿岸

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R4 海・川合同部会編



発行日：令和4年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆海・川合同部会WG／現地視察を開催しました！

新豊田駅をバスで出発し、鵜の首掘削箇所、ヨシ原再生箇所、干潟・浅場造成箇所を視察しました。WGでは、干潟・浅場造成事業について、現地視察の結果を踏まえ話し合いました。また、西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携について話し合いました。

日時：令和4年11月22日（火） 10:00～16:15

場所：鵜の首掘削箇所・ヨシ原再生箇所・干潟造成箇所・西尾市文化会館

参加人数：24名（内オンライン参加2名） ＊事務局を含む



◆主な会議内容

1 現地視察

① 鵜の首掘削箇所

豊田市街地の浸水被害対策である鵜の首地区水位低下事業について、豊橋河川事務所より説明を受けました。

令和2年度より明治用水頭首工より上流の河道掘削が実施されており、鵜の首については狭窄部区間の開削により川幅を広げる工事が実施されます。これら工事により出た土砂は海まで運搬され、干潟・浅場造成に利用されます。

② ヨシ原再生箇所

自然再生事業の一環として実施されているヨシ原再生箇所におけるヨシ原再生の状況と発生した土砂の活用について、豊橋河川事務所より説明を受けました。事業では、陸地化したところの水際を盤下げし、冠水頻度を高めることによりヨシ原を再生していきます。盤下げにより発生した土砂は海まで運搬され、干潟・浅場造成に利用されます。

③ 干潟造成箇所

鵜の首地区水位低下対策事業・ヨシ原再生事業により出た土砂を使った干潟・浅場造成事業の状況について、愛知県水産課 谷川氏より説明を受けました。また、事業エリアの海域環境の変化と海鳥の状況について、西三河野鳥の会 高橋氏より説明を受けました。



鵜の首掘削箇所見学



ヨシ原再生箇所見学



干潟造成箇所見学



2 海・川合同部会WG

(1) 本日の振り返り・意見交換

愛知県水産課 谷川氏より、8月に撮影された干潟・浅場造成工事の動画を使って、土砂の運搬から海への土砂投入に至るプロセスについて解説していただきました。その後、現地を視察した状況を踏まえ、意見交換を行いました。

(2) 西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携について

矢作川流域圏懇談会の活動を見直し、広げていくための取組として、西三河南部生態系ネットワーク協議会と連携していくことが川部会より提案されました。

(3) その他

事務局より流域連携イベントの開催について報告されました。また、愛知・川の会 近藤氏より11月に開催された「中部のいい川ワークショップ」について報告されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●鵜の首の掘削箇所見学

- 掘削土の何パーセントくらいを海に持っていつているのか？(青木)
 - ▶ 河道掘削の土砂は細かいので、全部を干潟・浅場の造材材として海まで持っていつている。(山路)
- 硬い岩が出た時の受入れ先の予定は立っているのか？(内田)
 - ▶ 受入れ先は検討中。運搬には渋滞を起こさないよう高速道路を使うので高コストな運搬となる。(山路)
- 鵜の首の掘削はいつごろから始まるのか？(高橋)
 - ▶ 都市計画変更、用地買収、民地との調整をこれから進めていく。そのため、河道掘削を先行させている。(山路)
- 鵜の首の事業について、矢作川漁業協同組合は理解を示しているか？(内田)
 - ▶ 平水よりも上を掘削するので、平水時の影響はないが、漁協ともよく話し合っていて進めていく。(山路)

●ヨシ原再生箇所見学

- 矢作川河口部の冠水頻度が下がっており、陸地化・樹林化が進行し、ヨシ原が衰退している。(山路)
- かつて河口堰の計画があり、上のほうまで高水敷を造った。それによりヨシ原がなくなってしまった。(高橋)
- ヨシ原再生と並行して、生物多様性のある環境を創出する目的でワンドを造る計画である。(山路)
- 棚尾橋の下流辺りに一番良いヨシの生育環境がある。ワンドもできている。(高橋)
- 整備したヨシ原は鳥類や底生動物などのモニタリング調査を実施している。また、年1回、ヨシの根を植えるイベントを実施しており、環境学習に適した場所としていきたいと思っている。(山路)

●干潟造成箇所見学

- ヨシ原再生箇所から13000㎡ 鵜の首の工事箇所から13000㎡の砂を干潟・浅場造成に使う予定。(谷川)
- 2.5mより深い水深のところに砂を約50cm盛って干潟・浅場を造成する。時期は4~10月を予定。(谷川)
- 浅場というのは2mくらいの水深なのか？(牧内)
 - ▶ 浅場は5mより浅いところを指す。アサリ漁場を造成しているので、2mくらいを浅場と考えている。(谷川)
- 昨年度の干潟造成面積は6.2ha。2030年まで毎年10haを造成していく計画である。(谷川)
- 2030年以降の計画はどうか？(牧内)
 - ▶ 計画としては2021年から5ヶ年だが、補修も含め、2030年で終わりというわけではない。(谷川)
- 海上の風向きなどによっては貧酸素水塊が表層に上がってくる。このあたりの青潮などの状況はどうか？(内田)
 - ▶ 平成10年あたりは苦潮でアサリが多く死んだという話があったが、最近ではかなり減ったと思われる。(谷川)
- 干潟を造ろうと思うと、土砂置場や船着場が必要となる。ここは元々どういうふうに使われていたのか？(青木)
 - ▶ この港は、現在造っている途中ということになっていて、まだ一般利用はされていない。(谷川)
- 14号地~矢作川河口部は、2mくらいの深さの浅い海で、陸域には塩田が広がっていた。非常に多くの鳥が観察でき、珍しい鳥が渡来してくる環境だった。万単位のチドリの子が飛び回っていたが、最近では激減している。(高橋)

●海・川合同部会WG

- 土砂を海に撒く範囲は、事前に範囲を決めておくのか？(内田)
 - ▶ 測量で工事地を決め、砂を入れていく。事前に場所を確認し、盛り過ぎたりしないよう注意して施工する。(谷川)
- 土砂を投入している時に濁りとかは出ないのか？(牧内)
 - ▶ SSを測定しており、今のところ濁りはなく問題はない。水質汚濁防止幕は使っていない。(谷川)
- 造成した浅場・干潟は10年間もつと考えている。砂を入れた後、悪くなっている場合は補修していく。(谷川)
- 例えば、風速20mくらいの台風が来た時、砂はどのように移動するのか？(太田)
 - ▶ かなり強い波を想定して計算しており、風速20m程度の台風であれば形状は崩れないと考えている。(谷川)
 - ▶ 潮流とかいろいろ砂が流れる要因はあるので、何年かたったらなくなるというのは想定していると思う。(青木)
- 土砂バイパストンネルで将来的には大量の土砂が川を移動することになるが、干潟造成への影響はどうか？(内田)
 - ▶ 砂の流れ込む状況によっては何とも言えない。事前に測量等を行い検討していく。(柴田)
- 土砂を海に出すという動きになった背景には、治水との関係があると考えてよいか？(青木)
 - ▶ 今まで治水事業で砂が出ても、干潟造成など受ける側の準備ができていなかった。今回はタイミングが良かった。総合土砂管理などで協力体制ができればよいと考えている。(山路)

今後の予定

■次回川部会WG：令和4年12月12日(月)10:00~12:00 岡崎市民会館 集中室 中会議室B

■次回海部会まとめの会：令和5年1月24日(火)14:00~16:30 西尾市中央ふれあいセンター

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課までお送りください。





発行日：令和5年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第61回川部会WGを開催しました！

第61回川部会WGでは、地域連携モデルの方向を検討することを目的に、西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携や協力について話し合いました。また、矢作川流域におけるごみの現状について情報共有を行いました。



日時：令和4年12月12日（月）10:00～12:20

会議場所：岡崎市民会館 集会室 中会議室B

参加者：18名（内オンライン参加3名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 地域連携モデル



(1) 西三河南部生態系ネットワーク協議会 活動紹介・質疑応答

西三河南部生態系ネットワーク協議会会長の谷地俊二氏より、生態系ネットワーク協議会の組織体制、活動等について説明をいただきました。主な説明事項を以下に記します。

- ・人間の活動により生態系ネットワークが分断されており、それを元に戻していく活動を行っている。
- ・生態系ネットワーク協議会は、土地所有者・開発事業者・NPOなど活動者で構成されており、愛知県内を9つの地域に区分して活動している。西三河南部は、碧南市・西尾市・高浜市で主に活動している。
- ・今年度は、オオキンケイギク駆除活動・探鳥会、愛知こどもの国いきものふれあい観察会、一色干潟観察会、秋のいきもの観察会を行った。
- ・学生にスタッフとして入ってもらっている。「GAIA」という学生団体に所属する学生も積極的に参加している。

(2) 今年度の連携に向けての意見交換

① 矢作川流域圏懇談会について

連携について協議するにあたり、愛知・川の会 近藤朗氏より、流域圏懇談会設立の背景について説明がありました。

- ・河川整備計画では河川管理者だけで解決できない課題が多くある。その課題について議論できる場として、2010年に設立されたのが流域圏懇談会である。
- ・河川整備は河川区域の中しか整備できない。そのため、流域圏懇談会では、河川区域内だけでは解決できないことも検討していかなければいけない。

② 連携に向けての意見交換

矢作川流域圏懇談会と生態系ネットワーク協議会の連携を進めていくため、以下の観点で意見交換を行いました。

- ・現状の矢作川流域圏懇談会の課題点は何か？
- ・西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携をとおして解決したい点は何か？
- ・西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？
- ・来年度、西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？

2. ごみ問題に関する情報共有



矢作川環境技術研究会の野田賢司氏により、矢作川流域圏と近隣流域における川・海ごみの分布と特徴について情報提供いただきました。主な情報を以下に記します。

- ・矢作川下流のごみの個数は100m当たり概ね10～20の範囲にある。
- ・豊川の河口では徐放性肥料カプセルなどマイクロプラスチックが多く見られたが、矢作川ではあまり見られない。矢作川は、愛知県のデータではマイクロプラスチックの密度が低い河川になっている。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●地域連携モデル

- *以下、「協議会」は生態系ネットワーク協議会、「流域圏懇談会」は矢作川流域圏懇談会を指す。
- ・協議会に参加している企業の動きや活動について教えていただきたい。(光岡)
 - ▶メインで動いているのは、NPO 法人、漁業協同組合、行政の方々。探鳥会などで企業敷地を貸していただくこともある。企業にどうやって入っていただくかは我々の課題と思う。(谷地)
 - ▶協議会の設立は愛知県自然環境課による呼びかけに応じた企業が参加していると思う。(近藤)
 - ▶協議会には企業参加を促そうという方針がある。企業参加が多いのは知多半島。東部丘陵では企業敷地のピオトープづくりに協力している。(内田)
- ・協議会の交流会に参加した。東部丘陵など学生の活動が盛んであると感じた。(近藤)
 - ▶学生が最も多く活動しているのは知多半島。「命をつなぐプロジェクト」という学生団体が活動しており、企業も活動している。(谷地)
- ・矢作川流域圏として関係する協議会は、西三河南部・西三河・東部丘陵の3地域となる。(近藤)
 - ▶9地域の区分の問題は協議会でもあげられている。流域圏で区切るほうがよいのではとも思っている。(谷地)
- ・情報の発信はどのように行っているのか？(山路)
 - ▶協力団体のメールリストを作っている。また、企業のホームページ上からの発信を行っている。(谷地)
- ・どうしたら連携できるかという点。協議会との連携と学生たちとの連携の2つの点がある。連携によるメリットの共有、Win-Win 関係の構築が必要。できることを流域圏懇談会としても議論していく必要がある。(近藤)
 - ▶連携・協力を考える上で、協議会と流域圏懇談会の目標が異なる点を理解する必要がある。協議会は、現在市街地になっているところに緑地を取り込んだり、生物目線での生態系ネットワークの回復を目標としている。一方、流域圏懇談会は、社会問題や治水問題など住民を巻き込んでできること等を考えている。(内田)
 - ▶活動や話題が地域の範囲に限られるため、地域から広げていく必要がある。生態系ネットワークの本質的なところを理解する上でも必要となることから、連携・協力ができればと思う。(谷地)
 - ▶愛知県環境部はフィールドを持っていないので、協議会はフィールドを持っている河川管理者がいるところと議論する場を作っていく必要があると思う。(近藤)
 - ▶協議会の活動には、あいち森と緑づくり税から生物多様性回復などの活動に対して補助金が出る。(内田)
 - ▶学生たちの情報発信の場、学習する場、流域思考を育む場として流域圏懇談会を利用するとよい。(近藤)
 - ▶流域圏懇談会を流域圏に軸を通すプラットフォームとして機能するようにできればと思う。(鷺見)
- ・協議会のいろんな活動が体験で止まっているという課題について、どのような課題解決を考えているか？(光岡)
 - ▶活動時間を1~2時間増やして、説明する場を設けるなど。あるいは、別の機会で座学を設定するなど。(谷地)
 - ▶我々も座学をやって現地へいくなどをやっている。座学と現地をセットで実施するとよいと思う。(牧内)
 - ▶今後活動を進めていく上で、時間配分やプログラムの構成を修正する必要があると考えている。(谷地)
- ・協議会の関係者、企業や学生、漁協も含め、流域圏懇談会各部会のメンバーに入ってもらおうとよいと思う。(光岡)
- ・協議会と連携したいことについてはどうか？(内田)
 - ▶岡崎市が市民大学をやっている。講師とかで連携・協力していくのはどうか。(太田)
 - ▶人間環境大学は生物関係の教員が充実している。講座の講師とかで協働の関係ができればと思う。(内田)
 - ▶ヨシ原再生のイベントで連携・協働できるのではないか。(鷺見)
 - ▶ヨシ原再生イベントはコロナの影響により関係者で実施したが、協議会と連携してやれたらと思う。(山路)
 - ▶学びと課題解決という意味で、バスツアーへの参加を協議会にお願いしたい。上流から下流、海までの矢作川の課題についてバスツアーを通じて検討するのもよいと思う。(近藤)

●ごみ問題に関する情報共有

- ・岡崎市では、小学生中心の市民団体が、クラウドファンディングを活用して乙川の清掃活動を行っている。(太田)
- ・今年、大きな洪水があり、大量のごみが溜まった。自然ごみの上に人工ごみが溜まっていた。その年の洪水がどのレベルまできたのかによりごみ密度が違ってくる。(鷺見)
- ・矢作川はダムが多くあるので、流木等の自然ごみは少ないと思っている。(近藤)
- ・岡山県で瀬戸内海のごみについてヒアリングを行ってきた。瀬戸内海もごみが内陸からきて海に集まる。この状況をどのように発信していくかが課題となっている。(近藤)

今後の予定

■川部会まとめの会 日時：令和5年1月31日(火) 13:00~ 場所：豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

